

# 春秋会

ニュースレター

2024.1



## 今月の予定

- ・ 1月17日12時から  
幹事会
- ・ 1月23日18時から  
研修「AIと憲法ー海外はAI規制にどう対応しているかー」
- ・ 1月29日19時から  
副会長就任祝賀会・  
新人歓迎会

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。能登半島地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。皆様の一年が、より良いものとなりますように。

## 松井淑子先生と村瀬謙一先生を、 応援します！ー12月総会のご報告ー

広報委員 中西教子（72期）

令和5年12月25日18時から、大阪弁護士会館1002会議室にて、春秋会12月総会が開催されました。リアル出席者は34名、WEB出席者は11名でした。

12月総会のメインイベントは、次年度の理事者の推薦決議を行うことです。

そこで、まず本総会で可決・承認された、次年度大阪弁護士会副会長候補の松井淑子先生（51期）と、次年度春秋会幹事長の村瀬謙一先生（48期）の応援をさせていただきたいと思ひます。

松井淑子先生のご経歴や大阪弁護士会副会長に立候補された動機については、令和5年7月12日付の意見書で書かれておられます。意見書は春秋会のホームページ（頁右下の「お知らせ」）にも掲載されており、応援する会員の誰もが既にお読みになっているところと思ひます。先生が、国税審判官や市の監査委員を務められ、税務に司法の観点を取り入れられてきたこと、多数の課税処分取消の不服申立や訴訟を担われていること、税と相続についての多数の先駆的な著書の執筆をされていることなどが書かれてあります。そして、国および地方の行政に携われてこられたその御経験から、弁護士自治の重要性を実感され、組織としての弁護士会を守ることを決められたという先生の強いお気持ちが書かれてあります。

本総会では、関根幹雄先生（30期）が、松井先生のお人柄と専門性、そして弁護士会の活動として貧困問題と法曹人口問題・ロースクール問題を取り上げてほしいことについて、次に、田中史子先生（51期）が松井先生の責任感・正義感・深い人脈について語られました。

そして、松井先生ご自身は、弁護士は一人で仕事をしているように見えて一人ではないこと、弁護士への信頼があってこそ弁護士自治があり、その弁護士への信頼を守るために弁護士会の活動を守りたいこと、そして、個々の弁護士では難しい世の中へのアピールを弁護士会としてやっていきたいという決意を語られました。

先駆者として切り開いてこられた専門性と多くの先生方からの絶大な信頼があふれていて、全員一致で可決承認されました。

## 2024年度広報委員

松尾洋輔（59期、委員長）  
溝上絢子（57期、担当副幹事長）  
西原和彦（55期）  
堀川智子（57期）  
浦寛幸（59期）  
広瀬元太郎（60期）  
柳勝久（61期）  
山田寛子（65期）  
金星姫（66期）  
木場晶子（67期）  
田村瞳（67期）  
板崎遼（67期）  
吉留慧（68期）  
高一成（69期）  
根本俊太郎（70期）  
足立敦史（71期）  
村本健司（71期）  
河野哲平（71期）  
才木晴幹（72期）  
中岡さつき（72期）  
中西教子（72期）  
久井大輝（73期）  
山本こずえ（73期）  
佐々木崇人（74期）  
神澤鈴子（74期）  
秦尚樹（74期）

決議後は、西村勇作先生（51期）と飯島奈絵先生（46期）からの激励の言葉がありました。

春秋会に所属し、松井先生を応援できることを嬉しく思いましたし、女性の先輩として理事になられることを絶対に応援したいと思いました。

春秋会として、大切なことは、もう一つ、幹事会です。

次年度幹事長になられる村瀬謙一先生は、穏やかで、若手の話もしっかりと聞いて親身になってアドバイスをくださる優しい方です。令和3年度の大阪弁護士会副会長を務められ、京都大学法科大学院で特別教授もなさっていますが、自分こそ学ぶことが多いと仰る、お人柄です。

村瀬先生は、幹事長になるにあたって考えていることが2つあると話されました。1つは、春秋の日の復活、コロナ禍ではできなかったことですが、ゲストスピーカーを招いて基調講演をしてもらい、食事をしながら色々懇談をすることをやりたいということでした。

そして、もう1つは、常議員会で議論された内容からピックアップした議題について、会員にも周知し、広く会員から意見を募りたいということでした。常議員には会員の意見を取り入れてもらうこと、会員には広く会務に興味を持ってもらうことが目的だ、と仰いました。

総会では、濱田雄久先生（47期）から、弁護士会執行部と会派執行とがしっかりと意見を戦わせながら弁護士会の行く末を決めてほしい、苦境にいる会員がいれば支えてほしい、そして、吉田之計先生（41期）から、大所帯の春秋会だからこそ個々の会員を支えてほしい、というお話がありました。

村瀬先生は、松井淑子先生を始め、弁護士会執行部を、議論するべきところは議論して、しっかりと支えていく、紛議調停委員を務めた経験と副会長時代の経験から、苦境にある会員に対しても、情報共有も含め、しっかりと協力して支えていく、と仰いました。

弁護士会が個々の弁護士の仕事と弁護士自治という価値を守っていくなかで、その弁護士会を支える先生方を、応援したいと思いました。

以上が本総会のメインイベントでしたが、その他、総会で行われたことについて報告します。

副幹事長の溝上絢子先生の司会のもと、総会の冒頭に、幹事長の岩本朗先生の開会挨拶がありました。そして、副会長の高江俊名先生から理事長挨拶と会務報告があり、法律相談1000円キャンペーンが盛況であったこと、相談者のアンケート結果を踏まえて相談料などについて検討していくこと、大阪弁護士会のマスコットキャラクターのリーガリユールについて、会員が申請すれば利用できること、LINEアカウント開設とラインスタンプの紹介、そして、国際ロマンス詐欺事件の懲戒請求に関連して無料臨時電話相談を行ったこと、誰もが悪質業者等に利用されないように注意していくべきだというお話がありました。

その後、既に述べたような理事者の決議があり、続いて各委員会からの報告事項がありました。

会費減額 PT の平野恵稔先生からは、幹事会に出された答申の内容についてのご報告がありました。内容の詳細は 12 月総会の資料で見えていただくことができますが、会費減額については、会費収入と特別拠出金収入とを合計した収入と、若手減額および会費減免事由の拡大を行った場合の支出とを衡量し、収支均衡またはその前後と想定されること、全会員一律の減額よりも若手会員の会費の一部減額が相当であり、繰越金の使途については今後検討していくこと、などが報告されました。現段階では、他会派の動向も鑑み、春秋会の会員を確保するための方法の一つとして会費減額を検討しており、財源的に余裕があって検討の議論に適しているということ、できるだけ多くの会員の皆様に知っていただきたいということでした。

次に、会計担当副幹事長の足立啓成先生から、令和 5 年度の予算執行状況のご報告がありました。

政策委員会委員長の松井淑子先生からは、令和 6 年 1 月 23 日に開催される研修「AI と憲法－海外は AI 規制にどう対応しているか－」のご紹介があり、研修後の懇親会では最新の EU の状況等も聴くことができるため、是非参加してほしいとのお話がありました。

研修委員会委員長の今井力先生からは、同年 2 月 10 日に開催される人権フェスタで映画「プリズンサークル」が上映されること、坂上香監督と刑務所で教誨師も務める金沢泰裕牧師との対談があること、および、同年 2 月 26 日 18 時からのヒヤリハット研修についてのご紹介がありました。

広報委員会委員長の松尾洋輔先生からは、会報とニュースレターに対して会員の皆様の反応をいただきたいことと、ニュースレターの記事を会員の皆様から広く募集したい旨のご報告がありました。短くても、単発でも、どんな内容でも嬉しいですので、私からも、是非お願い申し上げます。

親睦委員会委員長の西田敦先生からは、懇親できる機会が増えて嬉しく、今後も増やしていく予定であること、同年 1 月 29 日の副会長就任祝い兼新人歓迎会、および、同年 2 月 17 日 18 日の新人歓迎旅行に、参加者を募るといってお話がありました。

若手会担当副幹事長の西祐亮先生からは、同年 3 月 1 日の追い出しコンパ兼新人歓迎会の参加者を募る、というお話がありました。

いずれも、魅力的で貴重な機会となりますので、皆様、時間の許す限り、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

最後に副幹事長の由良尚文先生から閉会挨拶がありました。

春秋会の総会は、参加してみることで、会務の動きがわかるし、色々な先生方の考え方を聴くことができる貴重な機会だと実感しました。総会の後の懇親会も、勇気をもって参加すれば、とても楽しく、自分の世界が広がりました。

これまで参加されたことのない先生方は、これから、ぜひとも現地で参加していただきたいと思います。

## ワインのタベのご報告

親睦委員 徳山慶太（73期）

令和5年11月15日（水）に、リーガロイヤルホテル大阪にてワインのタベが開催されました。当日は、リーガロイヤルホテルのマスターソムリエである岡昌治氏お勧めの合計5種類のワインを、岡氏の解説付きでおいしいお料理とともにいただきました。



5種類のワインは、季節のお料理にあったものばかりで、どれも素晴らしいマリージュでした（個人的には、鴨とフォワグラとトゥルトが絶品でした。）。



ゲージュール リンゴのヴィシソワーズとジュレ 鴨の生ハムとフェタ 胡桃とブルーベリーの赤いサラダ  
フランボワーズビネガーソース



森のキノコのクリームスープ パイ包み焼き

サクサクに焼いた甘鯛の鱗焼き

サフラン風味のコンソメとハーブオイル



鴨とフォワグラとトウルト



洋梨のベル・エレーヌ風

ビーツのピューレと香草サラダ 赤ポルトソース

皆様、ワインとお料理を味わいつつご歓談いただいていたのですが、デザートが出てきたあたりで、景品のワインをめぐる、チーム戦でワインクイズが行われました。最後の1問が出題されるまでは、8チーム中5チームが同率1位と大接戦でしたが、岡ソムリエが難問として出題された最後の1問に唯一正解したチームが見事優勝を勝ち取り、景品のワインを持ち帰られました。

ワインのタベ企画は、コロナ禍のため久方ぶりの開催となりましたが、多くの皆様にご参加いただき、大盛況でした。親睦委員では、新企画の開催にもチャレンジしていますが、ワインのタベ企画のように、春秋会会員の皆様に長く親しまれている企画についても、より良いものとするべく尽力して参りますので、今後とも是非親睦企画に奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。





## 各派若手会対抗ゴルフのご報告

若手会 船越智晴（71期）

5位（令和2年）→4位（令和3年）→2位（令和4年）→??（令和5年）

令和5年11月18日（土）、「瀬田ゴルフコース 西コース」（大津市）において、毎年恒例の各派若手会対抗ゴルフが開催されました。

当日の天気はあいにくの曇り空。春秋会若手会からは5名が参加しました。

（参加者は、飯田亮真会員、佐伯紀明会員、村本健司会員、河野哲平会員、船越智晴です。）

さて、過去三年間の成績は、「5位（令和2年）」→「4位（令和3年）」→「2位（令和4年）」、少しずつ順位を上げて「今年こそは優勝！」と意気込んでいた春秋会の今年の順位は？





表彰式まで結果が分からないため、各会員は昨年の雪辱を晴らすため団体戦の優勝に向け、全力を尽くしました。

昨年準優勝という結果もあり、各会員表彰式ではドキドキしながら、結果を待つことに…



表彰式が始まり、まずは、ドラコン賞とニアピン賞の発表！

なんと、我らが春秋会から、飯田会員と佐伯会員がドラゴン賞を受賞！！



(ドラゴン賞を勝ち取り、喜ぶ飯田会員。)



(ドラゴン賞を受賞し、喜ぶ佐伯会員)

さて、その次は、個人賞の発表です！ドラコン賞を受賞し、勢いに乗る春秋会。春秋会からは誰か入賞することはできるのでしょうか。

結果、なんと…

春秋会からは、**10位**に飯田会員、**3位**に佐伯会員が入賞していました！！！！



(ドラコン賞に続き、個人10位賞を勝ち取り、笑顔が溢れる飯田会員。)



(個人賞優勝を目指していたようで、少し残念がりながらも、喜ぶ佐伯会員。)

ドラコン賞、個人賞と入賞し、団体戦の結果についても期待する各会員。  
団体戦の結果は、どうなったのでしょうか。

皆さん気になる団体戦の結果発表！！  
春秋会の今年度の成績は…

なんと…、**4位**でした！！笑

優勝は、昨年に引き続き、法友倶楽部！！  
(今年も法友倶楽部は強かった…)

飯田会員と佐伯会員が素晴らしい成績を収めていたことから団体戦の順位に期待してしまいましたが、他の会員が足を引っ張ってしまったようです(私もそのうちの一人で、来年に向けて練習をしたいと思います…)。

飯田会員は今年が若手会ラストイヤーのため来年は残念ながら不参加になりますが、佐伯会員は来年も若手会会員ですので、来年こそは優勝を目指して頑張ろうと、参加した会員同士、一致団結していました。

来年こそは優勝します！！



(春秋若手会の参加メンバー)

ちなみに、皆さんお気づきでしょうか。写真では佐伯会員が3つも封筒を持っています。一つはドラゴン賞。もう一つは個人賞3位。残りの一つ…

実は**ベストグロス賞**(ハンデキャップなど関係なく、最も打数が少ない人が受賞する賞のことです。)まで勝ち取っていました!!!

(本当に、今年は優勝を狙える年でした…来年も佐伯会員には頑張ってもらいます(笑))

団体戦は白熱しましたが、参加メンバーは、各自の会派だけでなく、他会派の若手会の参加者と和気あいあいとプレイし、会派を超えた交流をし、親睦を深めました。

(このような会は、普段交流をしない人と繋がりが持てるので、とても有意義ですね!)

来年こそは、団体戦優勝を目指します。

## 幹事からの報告【難波 BBQ 企画 I】

若手会 米田直人（75期）

11月29日19時～、なんばのビルの屋上でBBQ企画を開催いたしました。



寒空の中、のべ12名も来ていただきました。

あっという間の2時間半でした。

ステーキ、野菜、えびホタテの海鮮が付いたコースでしたが、追加でお肉を購入しました。29日の肉の日で、お肉屋さんの良いお肉を比較的安く手に入れることができました。追加で買ったお肉が好評で焼かれるとすぐになくなってしまいました。また、焼きマッシュマロやポップコーンなども楽しみました。

寒くて凍えながらお肉を食べることになったらどうしようかと思っていたのですが、テントの屋根もあるからかそれほど寒くなく、BBQをすることができました。

私が作成した謎解きを皆さんに解いてもらいました！

自分が作った問題を、皆さんが一生懸命考えてくださって、とてもうれしかったです。そして、良問と褒めていただき、よりうれしかったです。



このとき出題した問題を1問

①：②＝運動をしなくても消費されるエネルギー

③：④＝気温が高くて暑い夜

答え→④①ば

最後に解説をつけています。

1つのテーブルでたくさんの食材を囲みながら食事とお話が出来て大変幸せな時間を過ごせました。

夏にやるイメージがついているBBQですが、

少し寒い時期に汗をかくことなく、食事を囲むのも良かったと思います。

#### 謎解きの解説

基礎代謝→きそ たい しゃ→きそ：しゃ

熱帯夜→ねっ たい や→ねっ：や

真ん中の：はスコアを表すときの1対1の対にあたるものです。

①にきそ ④にや が入るので、答えはやきそばとなります。

答えは、BBQで作られることが多い料理ということも意識しました。

(今回のBBQでは作ることはできなかったのですが)

以上

## 参加者の感想【難波 BBQ 企画 2】

広報委員 中岡さつき（72期）

私もこの企画に参加しました。

結論、とても楽しかったです。内輪事情を聞けば、申込み状況はあまりよくなかったと聞きましたが、上記のとおりとても楽しくあっという間の2時間でした。

私は、この企画がメーリングリストに流れてきた時に、QRコードを読み込み、すぐさま申込みをしました。というのも、普段、街中でのBBQなど体験できないので、「これはやってみたい！」とまんまと企画のコンセプトに釣られ、また、「焼いたマシュマロが食べたい！」と食い意地を炸裂させ、申込みをしました。

リクエストしたとおり、マシュマロを用意してくれていました。

（マシュマロの写真を撮り忘れました・・・。）

米田先生の手作り謎解きも初めはみなさん、「めんどくさーい」というノリでしたが、どんどん引き込まれ、「この答えなにー？」「ヒントは？」「どーやって解くん？」と終盤、大盛り上がりで、名残惜しく終わりました。ちなみに、私は前述の問題、一番乗りで解けました！

参加してよかった、とても楽しい企画でした。

若手会、懇親会の先生方、これからも楽しい企画、よろしくお願いします。個人的には、お寿司企画の再来、お待ちしております(^^)

以上



地点（宮之浦）からI地点（太鼓岩）の谷は、違う谷筋である。しかし、I地点と縄文杉ルートの中でのD地点（楠川分岐）は、間に山があるものの直線距離ではかなり近い。

縄文杉を訪問する95%の人は、B地点からC地点までバスに乗り（この区間は、環境保護のためバスかタクシーしか通行できない）、C地点からD、E（大株）を経て縄文杉に到着、同じ道を5時間引き返して、C地点からバスに乗る（以降、このルートを「標準コース」という）。5時間の道のりを単純往復するのは、かなり退屈そうである。種々のネット情報でも、この退屈さが強調されている。さらに、標準コースの難点は、B地点とC地点の間のバス専用区間である。この区間をバスが頻繁に走行しているのであれば特段問題はないが、この区間のバスは1日5往復、登りが超早朝に3本、下りが夕方に4本である。がんばって早く歩いても、結局帰りのバス停で待たされる。加えて、このバスは山道を1時間くらい走行するのだが、大変混雑する、場合によっては積み残しもある、とのことである。

いっぽう、N子提唱ルートは、マイカー規制が行われておらず、白谷雲水峡入口のG地点までは車で行ける。G地点からI地点を経て、標準コースのD地点に合流、そこからF地点の縄文杉を往復し、帰りもD地点からI地点を経てG地点に戻るコースである。このコースの最大のメリットは、バスの時刻を気にする必要が無いという点にある。だいたい、怪我や事故は時間に追われたときにおこるものである。

N子提唱ルートの最大の難点は、「きつい」という点にある。また、そのルートを使ったという例を、ネットでは発見できないほどレアな点も挙げられる。

とすると折衷案として、G地点から入り縄文杉を見て、帰りはD地点で曲がらずに、そのままC地点に抜けてバスで帰るという案が出てくる。N子ルートのハードさに危機感を感じたN森先生が主張し始めたルートである。しかし、この折衷案は、G地点に放置した車を翌日回収に行かないといけ



けないという大きな難点があるし、時間に縛られることによる事故のリスクが回避されないため、却下された。

翌日のハードさを考えて、11日は休養するのが筋であるが、筆者らはレンタカーで島を半周し、「大川の滝」を見学したり、壮行会と称して、安房の街で名物のトビウオ料理に舌鼓を打った。屋久島の宿は、空港から歩い

て2分の RAKUSA ホテルというところである。2泊で、1室13000円のリーズナブルなホテルである。セルフサービスの朝食もある。推奨する。

明日のルートにつき、N 森先生がホテルのオーナーの奥様に説明したところ、「えー。それをする人聞いたことがない」とのご意見をいただいた。また、ホテルには、少し離れた飲み屋まで送迎してくれるサービスがあるが（いつもやっているか知りません。要確認）、運転手兼オーナー曰く、「あり得ないことはないです。ただ、標準コースが、登って降りるだけなのに対して、そのルートは、「登って降りて」が合計3回ありますので、疲労度は倍以上ですよ。ただ、そんなルートを検討するくらいですから、普段、相当登山しているんでしょハハハ」とのこと。N子先生は、「頑張りまーす」と答えるが、N森先生は不安顔だ。しかし、この段階での予定変更はありえない。



11月12日午前4:30、レンタカーでホテルを出発する。この日の日出時刻は6:34なので、あたりは真っ暗である。天気は霧雨、絶好のコンディションではない。しかし、1か月で35日雨が降ると言われる屋久島では、この程度の雨を気にしてはしかたがない。N子先生、「明るくなったら止みますよ」、なんて前向きなんだ。5:00に宮之浦（H地点）の「早朝弁当店」で朝食と昼食(セットで1500円くらい)をピックアップする。

「早朝弁当店」という業態があるのも屋久島ならではの。なお、ガイド

を付けずに縄文杉にアタックしようとする読者は、この早朝弁当を予約していないと餓死する。山には、売店も自動販売機も全くない。ホテルが、各集落にある「早朝弁当店」と提携しているので、宿に着いたら、まず弁当の手配は必須である。5:30、G地点（白谷雲水峡入口）に到着。ここの標高は630m、少し雨が強くなってきた。あと1時間で明るくなるが、スタートして30分程度の所に渡渉地点（川に橋が架かっておらず、飛び石を伝って渡る場所）があり、増水時は帰れとの注意事項がある。ここまで来て帰れということは、縄文杉を諦めろということと同じであり、若干の懸念がある。しかし、無理して勝負して遭難でもしたら、「弁護士3人が無謀登山」ということで、ネットで袋叩きに会うだろう。

登山届を出して、漆黒の登山道を出発。滝の音が聞こえるが、白谷雲水峡は全く見えない。帰りのお楽しみである。レアなルートだけあって、周りに登山者は全くいない。横溝正史の「八つ墓村」冒頭部分で、頭にランプをつけて大量殺人をする田治見要蔵のように、我々はライトで闇を切り裂き、進む。

読者は我々が異常な早起きをしているように感じているかもしれないが、標準コースでも、バスの登山口（C地点）到着は5:40である。九州は夜明けが

遅いので、ライトは必須である。照明は皆無であり、ライトが無ければ、川に落ちて死ぬ。今後アタックする読者は、忘れてはならない。なお、ライトはホテルでレンタルできる（RAKUSA ホテルはできた、要確認）。

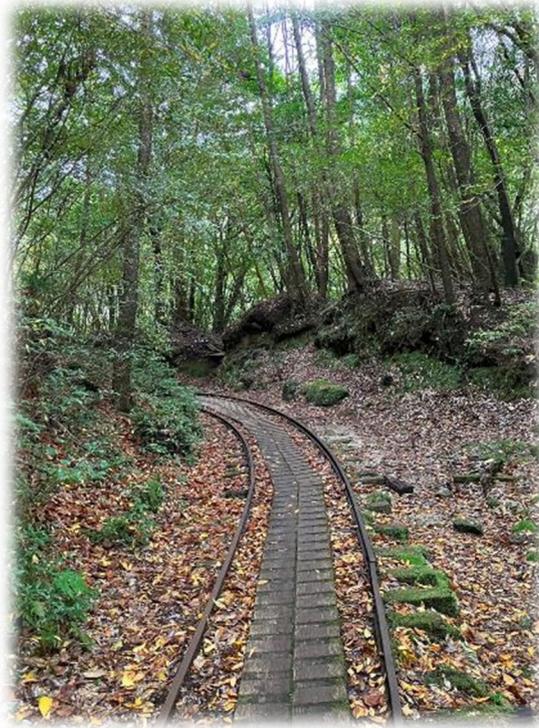
縄文杉

	地 点	標高	通過時間		修正タイム		実際	着	発
			標準	休憩	着	発			
行	白谷雲水峡	G	610						5:40
	歩道分岐		700	0:20	0:00		↓	↓	↓
	白谷山荘		830	0:45	0:00		↓	↓	↓
	辻峠	I	979	0:40	0:00		↓	↓	7:10
	太鼓岩		1040	0:15	0:15		7:30	7:45	(太鼓岩帰りに変更)
	辻峠		979	0:10	0:00		↓	7:52	
	楠川別れ	D	730	0:50	0:00		↓	8:30	7:55
	大株歩道入り口	E	930	1:10	0:00		↓	9:22	8:40 8:55
	ウィルソン株		1050	0:30	0:10		9:45	9:55	9:10 9:20
	大王杉		1200	1:00	0:10		10:40	10:50	↓ 11:45
	縄文杉	F	1330	0:30	0:20		11:12	11:32	10:30 10:45
	大王杉		1200	0:25	0:40		11:51	12:31	↓ ↓
	ウィルソン株		1050	0:50	0:00		↓	13:08	11:50 12:10
	大株歩道入り口	E	930	0:25	0:15		13:27	13:42	12:30 12:45
帰	楠川別れ	D	730	1:10	0:00		↓	14:35	13:32
辻峠	I	979	1:00	0:15		15:20	15:35	14:18 14:23	
白谷山荘		830	0:30	0:00		↓	15:57	↓ 14:42	
歩道分岐		700	0:35	0:00		↓	16:23	15:05 15:10	
白谷雲水峡	G	610	0:20	0:00		↓	16:38	↓ 15:45	
								↓ ↓	
	日の出			6:34					↓ ↓
	日没			17:28					↓ ↓
									16:39

問題の渡渉地点は、増水なくクリアし、我々は闇夜を駆けていく。それにしても、N子先生のペースの速さと身軽さはすごい。息を切らさず、ひよいひよいと岩を登っていく。あと10時間N子先生についていけるのか、少し心配になった。N子先生に後で聞いたところ、「なんか、テンションがあがって、ハイになってどんどん進めた」とのことであった。クライマーズハイである。

生来、時刻表が大好きなので、今回も添付した時刻表を作成し、メンバーに事前に配布してあった。「修正タイム」というのが、予定された時刻表である。なにを修正しているかという、登山地図に記載されている標準所要時間を75%に修正している。つまり、標準タイムの1.33倍の速度で歩くことが想定されている。難コースを選択したうえに、コースタイムも1.33倍と「なんと無謀なスケジュールか。君たちは何をやっているのか？」という疑問の声も読者から上がるころであろう。さらに、ダメ押しすると、翌日9:00から、カヌーのツアーも予約している。なお、昨日の、ホテルのオーナーの示唆を受けて、出発時刻を20分前倒した（右側の「実際」というのが実績値である）。

白谷山荘付近で、初めて先行の登山者を追い抜き、I地点手前で明るくなってきた。雨も上がってきた。I地点（太鼓岩下の辻峠）で朝食をとる。最初の予定では、太鼓岩という展望のきくところに往復する予定であったが、天気がいまいちなので、帰りに変更した。辻峠発7:10、出発時刻を前倒し、太鼓岩往復を午後に回したので、40分予定より先行している。ここからは急激な下りになる。スタート地点から370m登ったが、250m降りなければならない。帰りここを登るのは苦しそうだ。N森先生も同じ思いを口にしている。さ



らに、この区間(I→D区間)は、メインルートから外れているためか道がわかりにくい、2回ほどミスコースをして、誰かが「なんかおかしくない?」と言い「確かに」といって引き返す。一人でこのルートをアタックする場合、この区間の道迷いは要注意である。8時前に、トロッコの線路が見えてD地点到着、ここから標準コースに合流する。ここまでに出会った登山者は4人であるが、ここからは多くの登山者がいる。田舎から東京に出てきたみたいである。

峠道を軽やかに駆けてきた

我々にとって、ここから先のトロッコ道は平地みたいなものである。2本のレールの中央に板を敷いてあるから、今までの100倍歩きやすい。雨も完全に上がった。N子先生のペースも上がり、新快速が、次々各駅停車を抜いていくように、どんどん先行のパーティを抜いていく。トロッコ道の終点である大株までの標準タイム70分のところを45分で駆け抜け、50人くらい追い抜いた。大株から先の2.5kmはまた登山道である。標準コースの方にとっては初めての登山道であるから、ペースが一気に落ちる。また、道が狭いので前のパーティを追い越すことができない。

ところで、杉の話はどうなっているのか。ここまで、何本かの杉があったが、このあたりから有名な奴が出てくる。まず、ウィルソン株という切り株である。ハート形の株の写真はガイドブックによく出てくる。株の中は15人くらいが入れるスペースがあるが、ハート形にとれるポイントは1箇所しか

なく、列ができています。シーズンも終盤の11月でこれだから、夏休みとかどうなっているのだろうか。お決まりの写真撮って、9:20ころ出発。



縄文杉への道は、ウィルソン株の直後がきつい。筆者が一番疲れたのはこの区間だ。ワンステップの段差の大きい階段が延々と続く。標高が高くなり、霧も出てきて、息が切れる。ここまで、N子先生に追従できたが、徐々に間隔を開けられる。がんばったが、年齢差は埋められないか。ウィルソン株出発後30分あたりから、登りは緩

やかになってくるが、登山道のコンディションは悪く、休憩も多くなっている。いつもは若々しいN森先生もやつれ顔である。

ウィルソン株から約1時間、登山道が突然広くなり、大きなデッキになる。「大王杉」かと思ったが、そこが縄文杉であった。10:30着。ものすごい勢いで進んできたため、標準コース組の最先行グループに追いついたようで、人は少なかった。ガイドブックでは、人間が渋滞してゆっくり見えない場合もあるとの記載もあったが、幸いにもゆっくりと堪能できた。この杉の描写については数限りなくネットにあるので細かくは省くが、とにかく大きい。樹木のレベルを超えている。しかし、これを言うと身も蓋もないが、ここにいる人たちが感動しているのは、クライマーズハイと達成感の要素が大部分なのではないかと思う。離島への渡航、4時起床、長時間徒歩と舞台装置は完璧だ。「パワーをもらいました」とよく書かれているが、苦行を達成した自分にパワーをもらっているのだと思う。縄文杉が大阪城公園にあったとしても、ここまで人を引き付けるだろうか。一応目的地は設定されているが、楽しみの本質部分は過程にある、この考えは、筆者が本業としている「乗り鉄」に通じるものがある。「乗り鉄」に限らず、旅とはそういうものではないだろうか。松尾芭蕉の奥の細道も「過程」を綴ったものである。これ以上の蘊蓄はうざいのでやめる。



縄文杉は、デッキから降りて、直接接触するのは禁止であるから、木を見続けるのは15分が限界である。

登りが2回ある往路で、縄文杉まで4時間50分だから、登りが1回しかない復路はもう少し速いはずで、15時台の帰還も可能かと思われる。しかし、縄文杉からウィルソン株までは、登りのメインの集団とすれ違いで、何度も道を譲るため、思いのほか時間がかかった。ウィルソン株で12:00を迎え、ここで昼食をとる。往路で12:00にウィルソン株にいるようでは、脱落確定なので、

行きと違って閑散としている。食事のたびに、荷物が軽くなるのはいい。

天気も回復し、帰りも飛ばす。標準コースと白谷雲水峡の分岐点であるD地点を13:30ころ通過した。朝、「登りはしんどいな」と懸念したD→I区間も、思ったほどの苦も無く登ることができた。N子先生のペースに遅れることもなくなった。自分もクライマーズハイか。最後の峠であるI地点に14:20ころ到着。ここから、まっすぐ帰れば、あとは下りだけで、14時台の到着も可能かと思われる。我々は、行きにパスした太鼓岩に行く。

この太鼓岩が毘だった。ネット情報では、I地点の辻峠から、ちょこっと行

って帰って来れそうな感じだし、地図でも標準で15分と記載されている。軽い寄り道程度だと、全員が思っていた。甘かった。登りは、今日最強の急登が待っていた。おまけに、道もわかりにくい、木の枝に結び付けられているピンク色のリボンがルートを示す道標だが、その間隔が広すぎて、次のリボンが見えない。たしかに、太鼓岩からの眺望は最高だった。縄文杉標準ルートで味わうことのできない「頂上感」を達成できる唯一の場所である。屋久島の森が果てしなく続いていた。ここを外してはいけない。



太鼓岩からの帰りは、登りの10倍激しかった。備え付けのロープを使わないと降りられない急斜面が延々と続く。9時間以上歩き続けた身体にはこれ以上の拷問はない。I地点の辻峠に戻ってきたとき、右足の股関節が一定以上に曲がら

なくなっていた。さすがのN子先生も、ここにはやられたらしく、足が痛そうである。

N森先生もそうとう苦しんでいるようで、だいぶ遅れてやってきた。「足が壊れました」と言っている。歩いているので壊れていることはないと思うが、その気持ちはわかる。可動域が大幅に制限されているのだろう。等級が出そうだ。そして、自分のペースで歩きたいので、先に行ってほしいとのことだ。ここから先は、すべて下りで、白谷雲水峡の観光コースの一部なので、迷うこともないだろうということで、「下で待ってまーす」と先に行ってしまった。後で考えると、保護責任者遺棄罪一歩手前であるが、早く下山したかった。許してください。

足が動かないのは筆者も同じである。別に捻挫しているわけではない。一般的には、運動の翌日にくる筋肉痛が、今発症しているのである。可動域が制限された状態で階段を下りるのは辛い。足の踏ん張りが効かなくなっているので、すぐ滑る。おそらく、事故が起こるとしたら今だ。バスの時間を気にしなくていいルートを選んでよかった。

足は痛いけど、白谷雲水峡は美しかった。「苔むす谷」では休憩もかねてしばらく眺めていたが、宮崎駿監督にインスピレーションが湧くのも理解できる。ただ、凡人の我々は、これを作品に昇華させることはできない。

登りとほぼ同じ時間をかけて、16:39、車を停めた登山口に帰還した。ほぼスケジュール通りだが、20分早発したうえでのスケジュール通りの到着なので、実質的には20分遅れである。歩行時間は11時間、万歩計は42,000を示している。N子先生もお疲れのようだ。N森先生が少しでも歩かなくていいように、車を駐車場から登山道の出口まで移動させる。相変わらず、こっちの

ルートは人が少ない。30分程度の遅れで、疲労の極限にあるN森先生も到着。おいしそうに、ポテトチップスを食べた。塩分が不足していたのだろう。

総括するに、白谷雲水峡ルートでも11時間30分で往復可能であった。太鼓岩往復は、かなりしんどいので時間に余裕が必要だ。同じペースで標準コースを進んだのであれば、D地点とC地点（標準コースの登山口）間は50分程度でクリアできるから、標準コースを7時間10分で往復できたことになる。



5:40にC地点を出発すれば、12:50には縄文杉を往復してC地点に戻ってこることが可能で、タクシーを利用すれば15時には港や空港に着く。ということは、その日のうちに大阪に帰ることも十分可能である。つまり、土日で縄文杉アタックは可能である。時間のない読者も、是非トライしてほしい。ホテルには明るいうちに到着した。ホテルのオーナー

は、「こんなに早く帰ってきましたか」と迎えてくれた。

翌13日は、朝から強風が吹いていた。予定されていたカヌーのツアーは不可抗力で中止となり、キャンセル料は取られないことになった。昨日の登山後の飲み会（祝勝会）で、「キャンセル料を取られるなら、明日カヌーは実施」と決定したので、不可抗力での中止に、筆者は、ほくそ笑んだ。おそらく、みんなもそうだったであろう。

以上

岩本執行部での活動も、残すところあと3か月弱となりました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症による制約を大幅に解除して、ほぼ例年通りの方法で行事が開催されています。参加された会員の皆さんがとても楽しんでおられるのを見て、やはり対面で集まるのはいいなあとしみじみ感じているところです。

さて、私は広報担当副幹事長ですので、ここで今年度の広報委員会の活動についてご紹介したいと思います。

## 1 ニュースレター

皆さん、ご覧いただいていますでしょうか。毎月、行事案内、過去の行事の紹介記事、連載記事などが掲載されています。広報委員会の委員が手際よく作成していますが、一つ一つの記事にかなりの手間がかかっています。

## 2 会報

会報の作成には、ニュースレターからまたさらに大変な作業が必要です。例えば、秋号では、特集記事、弁護士10年、40年会員の記事、会務報告などの項目決め、特集記事作成のための企画、記事作成、弁護士10年、40年会員からの原稿依頼と収集から、印刷業者とのやりとり、校正チェックなど、作業内容は盛り沢山です。

## 3 その他

ホームページ管理なども広報委員会の仕事です。

これまで何気なく手に取り当たり前のように読んでいた広報記事、広報委員会委員の涙ぐましい努力、手間がかかっていることを目の当たりにして、ひたすら頭が下がります。

広報委員会では、現在、会報春号作成に向けて、鋭意作成中です。きっと面白い会報になると思いますので、どうぞご期待ください。

そして、残り3か月弱、どうぞよろしく願いたします。



## ニュースレターの原稿を募集します！

広報委員会としましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、会員の皆様の原稿を大募集いたします。是非、ご投稿いただきますようお願い申し上げます。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、漫画、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます。（もちろん、一定の審査はさせていただきます。）

広報委員会委員長 松尾洋輔 [y-matsuo@dojima.gr.jp](mailto:y-matsuo@dojima.gr.jp)